

汚れにくいノリ食害防除網を開発しています

漁業生産研究所 栽培漁業グループ

近年、県内のノリ養殖において魚による食害が目立つようになり、収穫量の低下を招いています。このため、ノリ生産者の多くが食害防除網により対策を行っていますが、防除網を海中に長期間設置すると海藻や浮泥などが付着しやすく、撤去作業には多大な労力が必要となるなど、ノリ生産者にとって大きな負担となっています。

そこで当グループでは、漁業用ロープメーカーとの共同研究で、生物に無害で付着物を減らす防汚塗料の開発に取り組んでいます。今年度は、防汚塗料で処理した防除網（以下：防汚区）（高さ 3 m × 幅 23 m）と、同サイズの未処理の防除網（以下：対照区）を6地区（鬼崎、小鈴谷、野間、味沢、一色、渥美）のノリ生産者に配付し、11月中旬から約1~3か月間漁場に設置してもらいました。

撤去した防除網の付着物重量を計測した結果、すべての地区で防汚区の方が付着物重量は少ないことが確認され、特に鬼崎、小鈴谷、野間地区において高い効果がみられました（図1、図2）。

防汚塗料の高い防汚効果が確認されたので、来漁期もこの網を使用して防汚効果の持続期間について試験を行っていきます。



図1 野間地区における試験後の防汚区と対照区

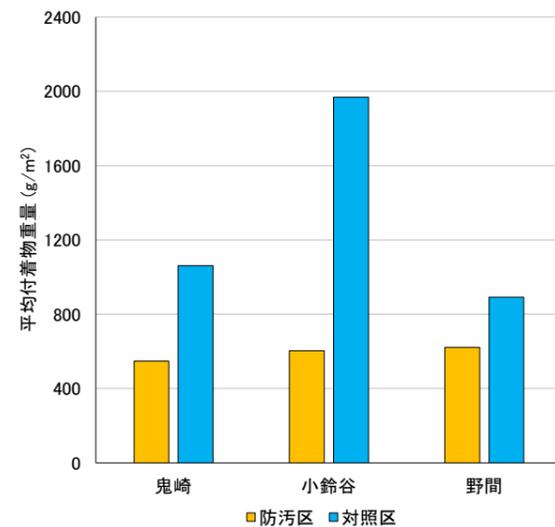


図2 防汚区と対照区の試験後の付着物重量

マイワシ3年ぶり1万トン超え、12月のシラスは過去最高

漁業生産研究所 海洋資源グループ

愛知県のマイワシの漁獲量は1970年代後半から1980年代までは2万トンを超える豊漁が続きました。その後は長い間、漁獲が少ない状況が続いていましたが、2015年頃から増加の兆しがみえ、2017、2018年には再び2万トンを超えました。その後は再び減少し、直近3年間は漁獲が少ない状況でしたが、2025年は3年ぶりに1万トンを超えました（図3）。

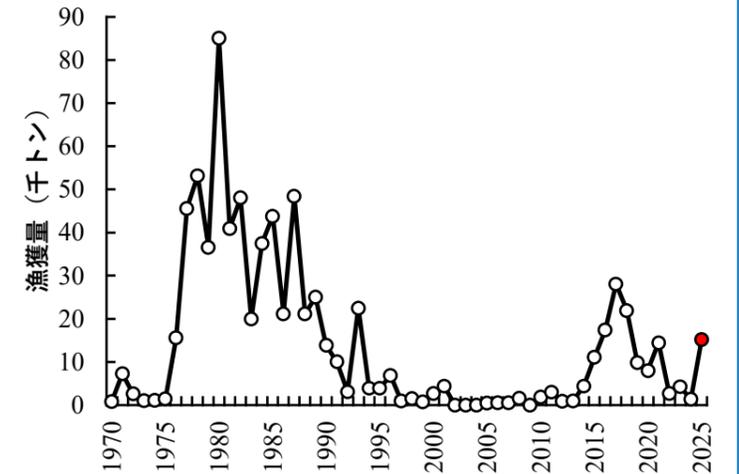


図3 愛知県のマイワシ漁獲量

伊勢・三河湾で漁獲されるマイワシの量は春に来遊するマイワシの稚魚の量に左右されます。来遊した資源を有効利用するため、マイワシを漁獲する船びき網の漁業者は「操業開始を遅らせる」、「禁漁区を設ける」、「操業時間を短くする」などして、マイワシを成長させてから漁獲したり、獲りすぎないようにする資源管理に取り組んでいます。

2025年は、操業開始を伊勢湾では前年より約1か月遅く、また、三河湾では伊勢湾より約1.5か月遅くしてマイワシを成長させました。さらに操業時間を短くして獲りすぎを防いだことにより、漁期は例年より長くなり、その結果、漁獲量も増加しました。

また、2025年は、11月中旬に伊勢湾内でシラスの小型魚が漁獲されたことから、漁業者はシラスを成長させるため、1週間休漁しました。その結果、休漁前は1日1船団あたり10~20カゴ（1カゴ約20kg）だった漁獲量は、休漁後は80~100カゴに増加し、12月の漁獲量は過去最高となりました（図4）。

測定したシラスの重量から休漁の効果を推定すると、1週間の休漁でシラスの重量は約2.5倍になり、その効果が確認されました。

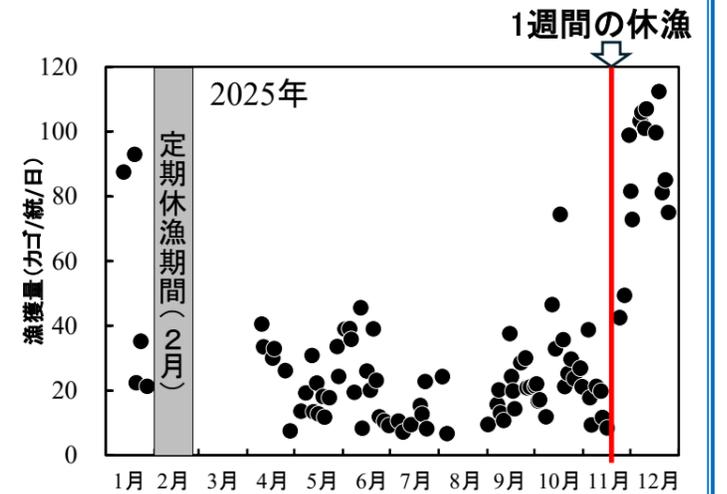


図4 1日1船団あたりのシラス漁獲量

当グループでは、資源の状況を調査し、漁業者に対してその状況に適した資源管理の提案を行っています。資源管理は限られた資源を有効かつ持続的に利用していくために重要であるため、今後も漁業者と協力しながら取組を推進していきます。

